

新聞スクラップに見る戦時下の読者の情報摂取

― 愛媛県八幡浜市で発見された冊子から

今西晋

愛媛県八幡浜市で、戦時下の新聞をスクラップした冊子が 36 冊発見された。冊子には満州事変直後からアジア太平洋戦争終結直後まで約 15 年間ほぼ毎日、戦局や国際情勢などに関する記事が切り貼りされていた。記事の取捨選択を調査することで、戦時下に生きた一人の新聞読者の情報摂取のあり方を浮き彫りにしようと試みた。

当時の新聞紙面は、日本の中国侵略を批判する国際社会の声も断片的に掲載していたが、スクラップでは日本側の主張のみを選んで保存する傾向があった。戦場から刻一刻届けられる戦況速報を好んで保存する一方で、日本の国際的孤立を憂慮する論述や、国内で広がっていた民主主義の危機に関する報道には関心を示していなかった。

当時の新聞社が国家の統制を受け積極的、消極的に国策に協力したことは広く知られているが、読者も自ら情報統制を先取りするように戦場の情報を求め、国策に沿った報道を追い求めていた姿が浮かび上がった。